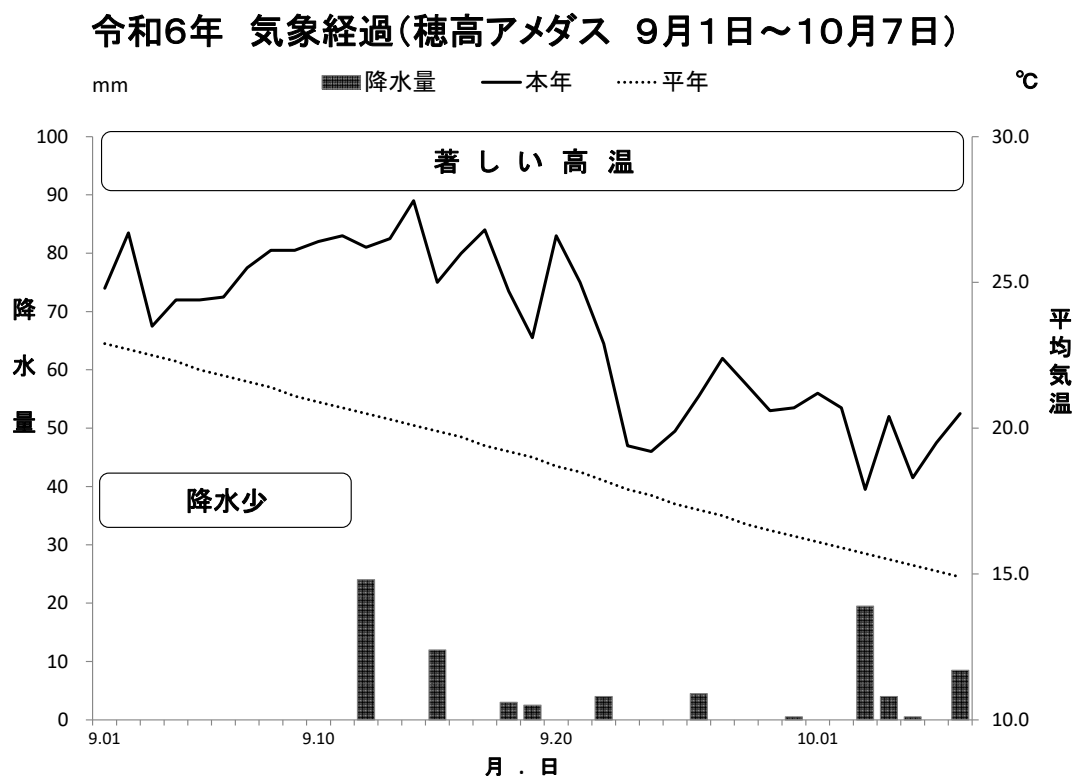


令和6年 作物技術普及情報 第19号

麦の播種作業、大豆・そばの生育状況について

1 気象状況



10月に入っても著しい高温が続いています。10月5日気象庁発表の1か月予報では、気温は平年より高い（特に期間の前半はかなり高い）と予想されています。

また、10月7日気象庁発表の高温に関する早期天候情報では、関東甲信地方は10月13日頃から「かなりの高温（平年より2℃以上高い）」になると予想されています。

2 麦の播種作業について

(1) 播種時期と播種量

- 松本地区のような寒冷地での麦作は、越冬前（12月中旬頃）までに必要な生育量（葉数3～4葉・莖数3本／株以上）を確保して耐寒・耐雪性を獲得することが重要になります。
- しかし、播種が早すぎると越冬前の生育が過剰になり、肥切れや低温で著しい葉の黄化や葉先枯れを生じることがあります。

近頃は播種後の気温が高い年や、2～3月の気温が高い年が増えており、越冬後の生育が過剰になる年が増えていきます。

また高温の影響で、幼穂形成が早まり凍霜害を受ける年も増えていきます。

この点からも早すぎる播種は避けるようにお願いします。

- また播種が遅すぎると、越冬前に必要な生育量が得られず、寒害や凍上害等の生育障害を受け、莖数・穂数不足で減収する可能性が高くなります。

このため極端な晩播（11月末以降）は避けるようにお願いします。特に大豆収穫後の麦は、播種遅れになりやすいのでご注意ください。

★ 播種時期の目安 ★

標高500～600m	11月 1日頃～11月20日頃 (注：山ぞいの場合 10月25日頃～11月15日頃)
標高600～700m	10月25日頃～11月15日頃 (注：山ぞいの場合 10月20日頃～11月10日頃)
標高700m以上	10月20日頃～11月10日頃
標高800m以上	10月15日頃～10月末

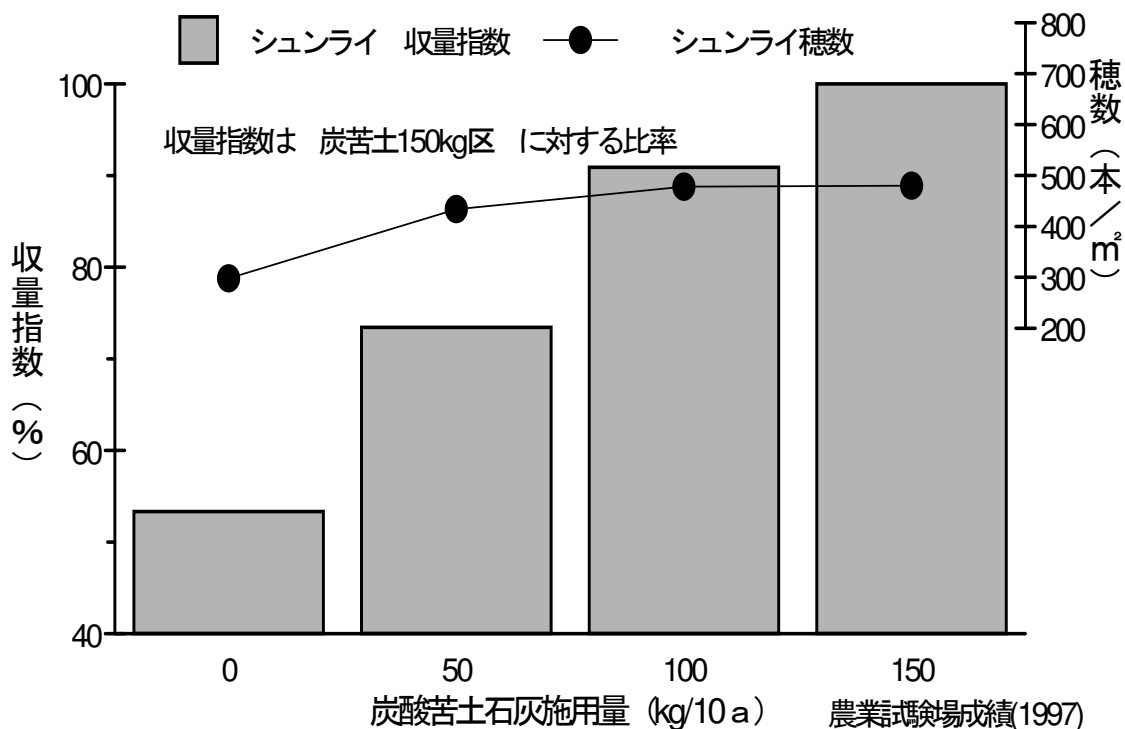
★ 播種量の目安 ★ 8 k g / 1 0 a

- 播種深度が深すぎると、出芽や初期生育が著しく遅れるので、5 c m以上の深播にならないようにしてください。

(2) 酸度矯正

麦は酸性土壌では生育が劣り苦土欠乏も起こしやすい作物です。酸度矯正不足の麦は、春先の生育が劣り減収するばかりではなく麦の品質低下（登熟不良による細麦化、容積重やタンパク質含有量等の低下）を招きます。

水田後に麦を栽培する場合は、炭酸苦土石灰などを施用して、p H 6 ~ 6 . 5 程度に酸度矯正を行うようお願いします。



(3) 耕起及び播種作業について

- ① 碎土、整地が悪いと出芽や生育が劣ります。また、播種後土壌処理除草剤の効果を引き出すには、除草剤処理時の碎土状況（粗いと除草効果が劣る）や土壌水分状況（乾きすぎだと除草効果劣る）が重要なポイントになりますので、碎土は細かく丁寧をお願いします。
- ② 今年は10月に入って雨の日が比較的多く、コンバインの旋回部分が滞水して、乾燥の不十分な圃場があります。

次の点にご注意いただき、播種作業を進めるようにお願いします。

- ・ 滞水している場合は、排水溝設置等の対策を講じ、速やかに圃場外に排水して土壌の乾燥を促してください。
- ・ 土壌水分が高いと出芽率が劣るので、圃場がなるべく乾いた状態になってから播種するようにお願いします。
- ・ 湿潤状態で無理して播種すると、碎土も荒く、また練った状態で覆土されて出芽不良になりやすいため、無理な播種作業は避けるようにお願いします。

(4) 雑草防除

- ① 水稲とのブロックローテーションの作付け圃場でも、スズメノテッポウ等のイネ科雑草やアブラナ科帰化雑草の発生圃場が増加傾向なので、播種後の土壌処理除草剤は必ず処理してください。
- ② 除草剤を散布して2週間後位に、圃場を観察し除草剤の効果を確認してください。残草状況によっては、茎葉処理剤の処理をご検討ください。
- ③ ネズミムギ（イタリアンライグラス）やカラスムギの発生している圃場に播種する場合は、播種前の耕起を十分行い、発生が少ない圃場条件にした後に播種するようにお願いします。

(5) 排水対策の徹底

ほ場周囲には必ず排水溝を設けてください。排水溝はただ掘るだけでなく、水尻につながっているか、圃場外に確実に排水ができているか、確認をお願いします。

(6) 小麦連作圃場の「コムギなまぐさ黒穂病」対策について

県内の小麦連作圃場の一部では、コムギなまぐさ黒穂病の発生が認められています。

本病は主に種子伝染の病害ですが、長年にわたって小麦を連作している圃場では、土壌伝染による本病の発生にも注意が必要です。

対策として水稻とのブロックローテーションを行い、小麦の連作を避け、県内の種子圃場産の健全種子を用いる事が基本ですが、やむを得ず小麦を長期連作している圃場では、以下の対策を取るようお願いします。

- ① 種子消毒を行う（土壌伝染による発生にも効果が期待できるため）。
使用薬剤については「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」を参考にしてください。
- ② 極端な遅まきは避ける（本病は麦の発芽前後に感染しやすく遅まきにより播種～発芽までの期間が長くなると、感染しやすい条件に遭遇するリスクが高まります）

3 大豆の生育について

これまでの高温の影響で、播種の早い大豆圃場では、葉の黄化がかなり進み、一部では落葉も始まっています。このように早期に黄化・落葉した場合は収量や品質への影響（小粒化等）が懸念されます。

生育も進んでいることから、収穫は平年より早く、大麦後大豆の収穫は10月20日頃から、小麦後大豆は10月末からが予想されます。

刈り遅れると裂莢による収穫ロスや、吸水によるしわ粒が発生しやすくなりますので、大豆の生育状況にご注意いただき、適期収穫をお願いします。

4 そばの生育について

8月上旬に播種されて湿害の影響の少ない圃場では、黒化率は概ね100%を迎えています。刈遅れで脱粒する前に収穫を進めるようにお願いします。